

イルカ通信

一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会

2010年10月1日 No. 038

隔月1回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

「イルカカタログ完成」

OWAが2003年から始めたイルカ調査も8年目を迎えることとなりました。イルカ調査で得られた個体識別の情報などを広く知ってもらうため、2006年に最初のイルカカタログを作成、ホエールウォッチング事業者さんに配布し、船上での解説にも利用されています。当時の識別個体数は156頭でしたが、現在までに216頭のイルカが識別されています。そして2010年7月、新たに識別されたイルカや新たな情報を付け加えた2010年度版イルカカタログがようやく完成しました。

カタログには、過去にイルカ通信で紹介したもののや特徴のあるイルカが載っています。OWAの事務所にもありますので、ご覧になりたい方は事務所までお越しください。完成するまでに、沢山の方々にお世話になりました。ありがとうございました。

これらからも更に新しい情報をお伝えしていくためにも現在、関係機関と協力して新たな研究を始めようとしていくところです。乞うご期待。

そして最近、体に傷のあるイルカの情報もOWAに寄せられます。写真を見るとかなり痛々しいものばかりです。個体識別を行う上では、大変分かりやすいのですが、そうは言ってもらえません。傷の原因としては、サメに襲われたり、何かにぶつかったりと色々と考えられますが、断定はできません。

また傷のあるイルカを見かけた場合はOWAまでご連絡ください。よろしくお願いします。



2010年度版イルカカタログ

「いろいろな傷跡」

今までに、この村民便りで何度もお伝えしてきているミナミハンドウイルカの個体識別。この作業はイルカの背ビレや胸ビレ、尾ビレの傷や欠け具合、体の傷などから識別を行っています。最近、体に傷のあるイルカの情報も寄せられ、イルカ調査隊の調査でも傷のあるイルカを確認しています。

鯨類における体の傷の原因はいくつかありますが、今回は実際の写真を使って、2例ほどご紹介します。今回は海外の研究者の方にも写真を見て頂きました。まずこちらの胸ビレの写真をご覧ください。



胸ビレにある沢山の傷

胸ビレの先端に「熊手」で引っかいたような白い線が見えます。これは恐らく同種の噛み傷であろうと推測されました。このような傷は社会性の強いイルカで良く確認されるもので、個体間における優劣の決定に関連しているそうです。ザトウクジラの尾ビレにも似たような傷がありますが、線の間隔がもっと広く、シャチによる噛み傷とされています。

次に頭にある大きな白い傷を見てください。ほぼ治りかけの傷ですが、傷跡から最初は頭部まで達していたと考えられます。



頭部の大きな傷跡

こちらの傷はプロペラによる可能性が考えられるとの見解でした。石川県の能登島にもミナミハンドウイルカが生息しているのですが、そこでも船のプロペラで傷ついたイルカの報告がありました。

今回お見せした写真は、ほぼ治りかけのものですが、中には負傷直後と思われる生々しいものまでありました。今後も個体識別や傷の原因解明のために役立てていきたいと思っております。傷ついたイルカの情報をお持ちの方は、OWAまでご連絡ください。よろしくお願いします。